

謹賀新年



あけまして

おめでとーございませう

本年もよろしく

お願いいたします

中央執行委員長

辻村和裕

中央執行副委員長

吉永和文

書記長

橋爪博史

中央執行委員

埴岡大介

中央執行委員

鈴木教仁

青年女性委員会議長

石塚大祐

特別中央執行委員

菊地克敏

特別中央執行委員

小山達礼

会計監査

鈴木俊巳

会計監査

加藤典久

職員

田中千絵

令和六年 元旦



辻村中央執行委員長

2024年あいさつ

謹んで新春をお祝い申し上げます。旧年中は大変お世話になりました。今年の定期大会で委員長になり、早くも半年が過ぎ、年齢を重ねると共に月日の流れが早く感じる今日この頃ですが、本年も貨物鉄産労の発展に向け、気持ち新たに取り組んでまいりますので、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

新年にあたり、自分なりの決意を述べさせていただきます。

まずは、安全についてです。私たちは、JR連合方針のもと「すべてのJR関係者の死亡事故・重大事故ゼロ」を目標に取り組んでいます。2017年12月16日鹿兒島線・千早操車場構内において旅客列車と触車し、組員が犠牲になったことは

痛恨の極みであり残念でなりません。あの事故から6年が経過しましたが、最悪の事態を招く恐れもあつた非常に危険な事象が、今もなお起きていることに危機感を覚えなくてはなりません。

また、グループ会社においても、フォークリフト絡みの危険な事故が連続して起きており、改めて「安全」について見詰め直す必要があると思います。日本の鉄道の定時率は世界でも群を抜いて秀でていますが、この定時率がやがて大きな事故を起こすのではないかと危惧する声も多くあります。定時を気にするあまり安全行動を無視することが、良い商品を提供しているといえるでしょうか？今一度、日頃の作業を見つめ直し、業務においては常に責任感を持ち、再発防止・安全強化に対する取り組みを、より一層作り上げていきたいと思います。安全に終わりはありません。

次に政策課題です。2024問題・鉄道強靱化・アポール改定・青函共用走行問題と大きく4点ありますが、今

年は、報道でも多く取り上げられていて2024問題の年度となります。JR貨物に対する期待は大きいですが、まずは既存する列車の積載率を上げていくことが重要です。現在、年間の輸送量が約165億トンkmで推移していますが、連結経常利益100億以上計上した、2016年度・2017年度の輸送量は約199億トンkmあり、まずは、この数値に近づけることが一つの目安になるかと思えます。コロナが収束しても輸送量が伸び悩み、会社全体が自信を失いかけていますが、労使が一体となってこの難局を克服していきましよう。

鉄道強靱化については、年々、自然災害が甚大化しており、川の決壊等で鉄道被災が相次いでいます。復興に貢献できる安全で信頼されるJR貨物会社を築きあげ、社会的使命を果たしJR連合とともに災害に強い強度な鉄道設備を早期に作り上げ、青函共用走行問題については、東京・札幌はJR貨物にとって主要ルートであり、北

海道新幹線札幌延伸2030年度開業から延期になる可能性が高くなりましたが、世間からの関心も高く、今後、どのような形に収まるかは全く不透明であり、どの形がベストなのかJR連合と共に取り組んでいきます。

次に組織課題です。2023年度は、国鉄組が60歳になる大きな転換期となりました。先輩方のご尽力により、これまで築き上げた鉄産労を今後守っていく使命が私達にはあります。課題は多くありますが、勇気ある決断をしてくれた仲間のためにも、JR連合・貨物鉄産労・各ロジ労組が連携を密にし、その総力を結集し組織運動を盛り上げていきたいと思えます。

次に労働条件についてです。2023春闘・期末手当では低額回答に終わり、不満の声が多くあります。労働条件の最たる賃金を上げなければ、優秀な人材確保も出来なくなり、やがて会社の発展に支障をきたします。多くの企業が賃金改善に取り組んでいます。JR貨物は遅れをと

っており、組合員の切実な声を上げ労働条件改善を強く要望してまいります。

最後に、私は平成5年（1993年）4月にJR貨物へ入社し、昨年で入社30年を迎えました。これまで昼夜を問わず仕事や組合活動に従事できるのは、家族の多大なる理解や協力であり大変感謝しております。今後も感謝の気持ちを忘れず日々精進していききたいと思っております。

これからもあらゆる角度から貨物鉄産労運動・運営を精査し、これまで築き上げた貨物鉄産労がさらに発展するよう頑張っていく所存です。組合員の皆様におかれましては、体調を崩しやしい時期ではありますが、お身体に気をつけ、今後も本部に対し叱咤激励をお願いし、私からの挨拶を終えたいと思えます。本年もよろしくお願ひいたします。



荻山JR連合会長

2024 新年あいさつ

明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃のご精励と組合活動へのご協力に感謝します。

厳しい苦境を脱し、JR旅客各社の経営は順調に回復しています。現在、国は「新型インフルエンザ等対策推進会議」で新たな危機に備える「政府行動計画」改定の検討を進めています。JR連合は、科学的根拠に基づく人の移動と感染防止の両立などを提起し、意見反映に取り組んでいます。

JR連合は一昨年の結成30周年の節目を大きな転換期と認識し、JR産業と働く仲間の将来に向けた提言を発信しました。これを踏まえ、安全確立を最優先に位置付けたうえで、新年の方針や

決意を2点申し上げます。

まず、産業政策です。JR連合はJRが民の力を發揮し「地域交通など公共的役割を果たすこと」「新幹線など成長分野を進展させること」の重要性を提起しています。

昨年、地域交通法改正により国・地方・JRが連携強化し持続可能な地域モビリティをつくる仕組みができました。本年はこの実効性を高めるべく取り組みます。また成長分野について、地域発展に貢献する新幹線の有用性を訴え、その着実な建設などを求めます。このほか4月から

の自動車運転者や建設業の時間外労働の上限規制強化に伴う「2024年問題」への対策も急務です。伸び悩む鉄道貨物の利用拡大、鉄道の保守・工事の安定遂行などの課題解決へ現場起点で取り組みます。

2点目に労働政策です。JR各社で離職が増加し人財確保に苦労しています。JR産業の魅力低下に危機感を持ち、賃金や働き方の改善を果敢に進めなければなりません。その転機にすべく20

24春季生活闘争に臨みます。人件費はコストでなく成長投資です。成長と分配の好循環を築くとともに、物価上昇も考慮した積極的な賃金上げと原資の価格転嫁も求められます。これは政労使が主張する社会的要請です。運賃改定の理解も広げる必要があります。合わせて、安心して意欲高く働き続けられるJR産業を築くべく骨太の議論を深めることとし、指針となる「中期労働政策ビジョン」改訂版を6月の大会で提起します。

変化の時代にJR産業が持続的に成長するには、責任ある労働組合と健全な労使関係が不可欠です。JR産業に働くすべての仲間のJR連合への総結集、JR各社の結束強化、JR連合との信頼関係づくりを訴えます。

結びに、次代に繋がる有意義な一年を築くためにJR連合は全力で取り組む決意を申し上げます、新年のご挨拶と

こくみん共済 NEWS coop



公式キャラクター
ピットくん

「たすけあいの輪をむすぶ」
こくみん共済 coop は、次のステージへ

こくみん共済 <全労済>

全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

たすけあいの輪をむすぶ

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。